



目次

1. 職業訓練・機織りプロジェクト
in マダガスカル YMCA
2. 「世界中の YMCA のユースと共に活動する
Change Agent と Youth Reps」
3. フィリピン台風被災地 新たな一歩

日本 YMCA 同盟
〒160-0003 東京都新宿区本塩町 7 番
03-5367-6640

職業訓練プロジェクト マダガスカル YMCA

Y Care International 2014 年 9 月 4 日配信

真っ白な砂浜と美しい青い海を求め、多くの観光客が訪れる国、マダガスカル。そんな美しい自然とは裏腹に、世界で最も貧しい国の一つという代名詞も付けられているマダガスカルの地において、貧しい人々を支援するために YMCA では職業訓練プログラムを実施しています。

Charline さんと Fafa さんは、貧しく不安定な生活を送っていました。政治的混乱や不景気によって社会情勢が安定しない中、十分な教育を受けること、自分の身を自分で守ることも困難な状況にありました。

2013 年 1 月 Charline さんが 19 歳の時に、YMCA の職業訓練コースの機織りプログラムに参加し始めました。そして機織りプログラムを修了すると、同じプログラムに参加していた Fafa さんと一緒に事業を立ち上げることを決めました。マダガスカル YMCA から、事業立ち上げに伴う必要な道具の援助を受け、2013 年 9 月に事業開始となりました。



Charline さん:「機織りをするのは楽しいです。楽しみながら安定した収入が得られるなんて、本当に幸せです。まずはラフィアというヤシ科の植物の繊維を織って、マットを作り、その後染めます。今ではたくさんの注文が入ってきます。1 か月あたり平均 135,000 アリアリ(約 13,000 円)の収益を出せるようになりました。収益の半分は、事業の経費に充てています。余った費用は家族の為の食費に充てたり、将来の為に貯金しています。機織りを始めてから、私の人生にたくさんの良い変化がありました。これからは、もっとたくさん注文を受けて、ずっと機織りの仕事を続けていきたいです。」

楽しみながら安定した
収入が得られるなんて、
本当に幸せ

Fafa さん:「工場で働いていた時は、給料も良くなく、シングルマザーなのでいつも2人の子どもの両親に預けていました。2010 年に政治が混乱し社会が不安定になった時、勤めていた工場が閉鎖に追い込まれてしまいました。失業し途方に暮れていた時、偶然にも YMCA の職業訓練コースと出会いました。特殊な技術も必要なく、短い時間での勤務が可能だと思い、機織りプログラムを選びました。プログラムの講師はとても親しみやすく優しいです。私達が分かりやすいように説明してくれます。

このプログラムを通じて、働くために必要な様々なスキルや、経費の管理の仕方も学びました。YMCA から道具や事業をするための場所を提供してもらい、Charline と一緒に事業を立ち上げられて、本当にうれしいです。最初は

織るスピードが遅く、5メートル織るのに2週間もかかってしまいましたが、今は3日あれば織れるようになりました。さらに、今は週5日、1日8時間働いていて、工場で働いていた時の1日12時間労働より環境がとて良くなりました。機織りをしている場所も、家から近く、子ども達と過ごす時間も増えました。得られた収入を食費や子ども達の養育費に充てています。」

Charlineさん Fafaさん共に、収入が安定しただけでなく、自らの道を選択できるようになったこと、達成感を感じられるようになったことこそが、この事業の大きな成果ではないでしょうか。



世界中のYMCAのユースと共に活動する Change Agent と Youth Reps

日本YMCA同盟まとめ

現在、世界中の若者の人口はおよそ18億人と言われています。その18億人の若者のうち…

- ・ 7,300万人の若者が失業状態
- ・ 2.2億人の若者が、“ワーキングプア”
- ・ 毎年1,600万人の15歳から19歳の若い女性たちが出産している
- ・ 30秒に1人が新たなHIV/AIDSの感染者となっている

という社会情勢の中、YMCAには何ができるのでしょうか？

産業革命が起き混沌とした社会情勢の中、12人のユースがより良い世の中を作る為に立ち上げたYMCAとして何ができるのか。この数年間、世界中のYMCAでこのことが問われてきました。

そして、その答えが「ユースエンパワーメント」です。

ユースとは、10代後半から30代前半の若者を指します。日本のYMCAでは18歳～35歳までをユースと定義しています。このユース達を中心となり、社会に変革をもたらす、ユースだけでなくすべての世代、すべての人達にとって暮らしやすい社会を創る、これがYMCAの目指すユースエンパワーメントです。そしてそれはすでに、各地のYMCAで様々な事業を通じて行われていることでもあります。このChange AgentとYouth Repsは、既存のユースエンパワーメントを、世界規模でよりダイナミックに実行する目的の下、世界各地から召集されています。



<世界規模のユースエンパワーメントは誰が実行するの？>

世界YMCA同盟ではChange Agent、アジア太平洋YMCA同盟ではYouth Repsという名称で呼ばれる、各国のYMCAを代表するユース達が担います。両者には、①所属するYMCAや地域社会に積極的に働きかけ、良い変化をもたらすこと、②世界中のYMCAの仲間達と共に、切磋琢磨しながらより良い社会を創ることが求められています。

2年前に発足したChange Agent第一期では、63ヶ国から220人のユースが選出され、2014年7月に任期を終えました。第一期Youth Repsは現在も活動中で、2015年9月に行われるアジア各国のYMCAが集うアジア・太平洋YMCA大会に向けて、準備を進めています。日本からは3名が選出され、世界のYMCAのユース、そしてそれぞれの所属するYMCAのユースと共に日々歩みを進めています。

世界のユースと繋がるなら
Change Agent
アジアに特化するなら
Youth Reps

<これまでどんな取り組みをしてきたの？>

下記は、Change Agent や Youth Reps が担ったイベントの一部です。これ以外にも、それぞれの所属する YMCA では、自ら企画したイベントを運営するなど日々活動をしています。

① World Challenge

2012・2014 年に行われた World Challenge という、世界の YMCA が一斉に行うイベントでは、Change Agents/Youth Reps が中心となり世界各地で様々なイベントが行われました。World Challenge は、①ユースエンパワーメントに取り組む YMCA を世界へアピールすること、②世界で同時にイベントを行うことで、世界の YMCA の一体感を感じることを、などが目的とされていました。World Challenge2014 では、YMCA のユースが活発に活動していることをアピールし、ユースの社会への参画を訴えるために、“I stand for young people and I want their voice to be heard”というメッセージを世界の YMCA のユース達とともに一つの動画に作り上げました。その動画は下記 URL からご覧いただけます。

2014 World Challenge 動画: <https://www.youtube.com/watch?v=GSqFSD86U2c>

② 世界 YMCA 大会のファシリテーター

世界 YMCA 大会とは、4 年に一度行われる世界の YMCA が一体となって進むべき方向性や価値を共有したり、各国の仲間たちと繋がる大イベントです。2014 年 7 月上旬にアメリカ・コロラド州で行われた第 18 回大会では、83 の国と地域から総勢 1,300 人が集結しました。ここでは YMCA の価値や展望をディスカッションする時間が多く設けられ、そのファシリテーターを Change Agent が担いました。これにならって、2015 年 9 月に行われるアジア・太平洋 YMCA 大会では、Youth Reps が中心的存在となり大会を動かしていきます。

<Change Agent と Youth Reps の違いは？>

Change Agent は世界の YMCA を繋ぐ“世界 YMCA 同盟”としてのユース代表者です。ヨーロッパやアフリカ、南米などの世界中の YMCA のユースと共に活動します。世界の YMCA 全体を巻き込んで行われるイベント(上記の World Challenge や YMCA 大会)での活躍が期待されています。

Youth Reps はアジアの YMCA を繋ぐ“アジア太平洋 YMCA 同盟 (APAY)”としてのユース代表者です。アジアの国々を巻き込んで行われるイベント(アジア・太平洋 YMCA 大会など)での活躍が期待されています。

2015 年 9 月のアジア・太平洋 YMCA 大会後に、現 Youth Reps は任期を終えます。

年内には、第 2 期 Change Agent と Youth Reps の募集の情報発信がされる予定で、2015 年から 2 年間の任期が予定されています。

<どうしたら Change Agent/Youth Reps になれるの？>

両者の第一条件は、YMCA で活動をしていることです。ボランティアリーダー、専門学校生、委員、その他、YMCA に関わっているユースであれば誰でも所属する YMCA を通じて応募することができます。

その他の条件としては、語学力です。Change Agent と Youth Reps のやり取りは全て英語で行われます。インターネット上でのミーティングが行われたり、様々な資料が送られてきたりしますが、それらは全て英語ですので、一定の英語力が必要となります。

また、それぞれの役割には 2 年の任期があります。そしてその期間中には、様々な イベントの他、インターネット上での研修やミーティングが行われます。任期を全うできること、様々なイベントや研修に出席することも求められています。



フィリピン台風被災地 新たな一歩へ

アジア太平洋 YMCA 同盟 APAY e-News 9 月号

2013 年 11 月にフィリピンを襲った台風 30 号。その被害が最も深刻だった地域の一つ、フィリピン中部にあるイロイロ島の村では、公共施設や住民の家々の屋根が吹き飛ばされ窓ガラスも割れ、骨組みや土台だけが無残な姿となって残されました。この村の人々は漁業や自営業で生計を立てていましたが、船や仕事道具も壊れてしまいました。この様な深刻な事態を受け、アジア太平洋 YMCA 同盟 (APAY) では緊急支援を呼びかけ、日本 YMCA 同盟も国内の YMCA に緊急支援募金を呼びかけました。日本の全国の YMCA から、9,445,275 円もの募



支援金を受け取る村の女性

金が寄せられ、現地での復興支援に用いられています。

2014 年月上旬には、住宅や公共施設の修復作業が中心に行われ、生活の基盤を整えていきました。小学校や、中学校の校舎や図書館の修復も行われ、無事に子ども達の授業が再開されました。

そして台風から 1 年が経とうとしている今、現地では元の生活を取り戻すための新たな一歩として、住民の生活再建が進められています。

行商を営んでいた 30 名を対象に、再建支援として 5,000 ペソ (約 12,000 円) が支給されました。これを元手に各々計画した再建計画に基づいて行商を再開し、収入向上を目指します。また専門職 (大工、調理、美容など) に就いていた 40 人にも、必要な道具を購入するための資金の支給が行われました。

養豚に取り組む村人へは、40 頭の子豚が支給されました。本来、村の人々が行っていた仕事に基づいた再建支援によって、村の人々はこれから再スタートをきる希望を得ることができました。漁業や農業を営む村人への支援も今後行われます。

子豚を支給された
養豚を営む村人

多額の支援金を投入して大規模な再建を行うのではなく、本来の村の生活を基盤に、新たな出会いや機会を提供し、村の大人達やユース達協働やリーダーシップを築きながらよりよい村づくりを今後も行っていきます。

